所属：宇部工業高等専門学校　一般科

研究タイトル：

哲学対話教育における教師の役割の研究

氏名：	小川　泰治　／　OGAWA Taiji	E-mail：	ogawa-t@ube-k.ac.jp
職名：	講師	学位：	修士（文学）
所属学会・協会：	日本倫理学会，応用哲学会，日本カント協会など		

キーワード：	哲学対話，子どもの哲学，哲学教育，ファシリテーション，アクティブ・ラーニング
技術相談 提供可能技術：	・企業向けの哲学対話を用いた研修 ・教員向けの哲学対話のファシリテーション研修 ・哲学対話のファシリテーション（子ども向け、大人向けどちらも可）

研究内容：現代において教師とは何者か？―こどもの哲学の理論と実践を通して

研究の背景

2018 年現在国内の学校教育は大きな転換期にあることに疑いの余地はない。この転換は教員にも従来の知識教授を基本とする teacher ではなく、生徒や学生の深い学びを促し、教室に対話的な空間を生み出す facilitator としての役割を求めている。これは、単なる教育手法の問題ではなく、学校という空間の存在意義や教える者と教えられる者という教師と生徒の関係性といった根本的な教育観を問い直すものである。それゆえに、教育学や教育哲学の古典的な問い「教師とは何者か？」という問いも新たに問い直されているといえる。

本研究では、上記の問いに対し「こどもの（ための）哲学 Philosophy for children」と呼ばれる初等中等教育における哲学的な対話を手法とする哲学的な教育プログラムに着目している。この種の哲学教育においては、教室で教員と生徒や学生が真に「哲学する」ことを目指すという特殊性ゆえに、いわゆる teacher とも facilitator とも異なる教師像を有している。研究者自身も実践者の一人である「こどもの哲学」の理論および実践を手がかりにすることで、教師とは何者か？という古典的な問いに対し新たな解答を提示したい。

←哲学対話の授業でしばしば用いられるコミュニティボールというトーキングオブジェクト。発言を希望する者は教員、生徒を問わず挙手をしてこのボールを受け取ってから話すことがルールとされる。こういった装置なども用いながら、哲学対話の授業では教員と生徒が「共同探究者」となることが目指されている。

研究の進め方

こどものための哲学・哲学教育についての従来の理論的研究（M. リップマン、T. スプロッドなど）に対し、近現代の倫理学の研究（I. カント、S. ダーウォルなど）の観点を通して議論を再構築する。特にダーウォルの「二人称的観点」からの倫理学の立場における権威 authority に着目することで新たな整理が可能だと考えている。

並行して、上記理論的な研究の成果を、常に研究者自身の実践や国内外の哲学対話による授業の調査を通して検証していく。それによって実際に教室で行われている教師のふるまいや実践知をも含めたかたちで研究を進めていく。

提供可能な設備・機器：

名称・型番（メーカー）	